
ぜんまい仕掛けの人形

天川りか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぜんまい仕掛けの人形

【Nコード】

N4979B

【作者名】

天川りか

【あらすじ】

「君」は押入れの奥から人形を取り出した。ぜんまい仕掛けの人形を。

押入れの奥の奥。

滅多に掘り出されることの無いダンボールの中。
ひっそりと、でもしっかりとそこにいた。

「懐かしいなあ、これ」

君はダンボールからひょいと人形を持ち上げた。

ぜんまい仕掛けで、ギーギーと言う音がする。

かなり古いが、ぜんまいを巻けば何とか動く。

それに、色褪せてはいるが、可愛い容姿とフリルの付いた服は健在だった。

「良く遊んでいたんだよね、これで」

そう言つて君は左右に動かし、いろんな角度から見る。

「ぜんまい巻けば、動くかな？」

君は好奇心旺盛にぜんまいを回した。

ギシギシという音を立てながらぎこちなく動いた。

しかし所詮ぜんまい仕掛けで、長く動くことは出来なかった。

それでも君は嬉しそうに目を輝かせている。

「洋服でもつくつてあげよう」

結構暇人だなあ。

しかしこの散らかりよう。掃除の途中じゃないのか。まあいいか。君は押入れからミシンを取り出し、布を取り出した。

小一時間が過ぎると、君は洋服を作り上げた。昔から、器用なのは変わっていないみたいだ。そして洋服を脱がすと、その服を着せた。

うん……まあ。

分かってたけど。

「……飾ろう」

仕舞っておくのがもったいなくなっただみたいだ。埃を払うと、棚の上に飾った。

スペースが狭くて、落ちそうになったけれど、君は見事にキヤッチした。

そして物を退かし、十分なスペースを確保すると、再度、置いた。

もう、落ちそうにないよ。

だから、そんなに確かめなくてもいいのに。

君は昔を思い出したみたいに、腕にあるへこみを気にかけていた。

次の日、君は泣いて帰ってきた。

君は僕の腕を引っ張ると、その場に崩れた。

嗚咽を漏らすばかりで、何も話そうとしない。

でも、その方がいいのかもしれない。

昔から、一度泣くと止まらなくて、

無理に喋ろうものなら、咳が止まらなくなるのだから。

しかし今日は珍しく早く泣き止んだ。

成長、したんだな。

「……彼氏が、浮気してた……」

成る程ね。

というか君、彼氏いたんだ。

「……っそれでね、……何も、出来なかった……」

そうだろうね。

浮気現場を見てその場で追い詰められるほど、君は強くないから。
誰かに背中を押されないと、動けない。

僕みたいに、ね。

それから君は泣き続けた。

僕はそこに居ることしか出来ない。

まあ、いいか。

居ても居なくても、僕が相談に乗ることなんて出来ないのだから。

君と僕は似てるねえ。

誰かが背中を押さないと動くことが出来ない。

背中に手を当てて自分自身を押すことも出来ない。

ああ、彼氏ついでに僕も真実を言おうか？

僕、男だから。

新しいフリルの服、嬉しいようで嬉しくなかったよ。

小さいころから、気づいてなかったでしょう？

僕が君を見てたことも。

（後書き）

初の二人称作品です！
私なりに頑張ったので下手だとしても大目に見てください；

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4979b/>

ぜんまい仕掛けの人形

2010年12月11日03時18分発行